

カトリック 大名町教会ニュース

DAIMOUMACHI CATHOLIC CHURCH NEWSLETTER

〔ミサ時間〕 主日：7時・9時30分／ベトナム語（第2・第4日曜日）：14時／英語：16時

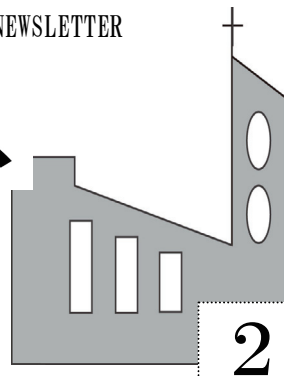
〔ホームページ〕 <http://www.daimyomachi-c.or.jp/>

〒810-0041 福岡市中央区大名2-7-7〔巡〕能古島カトリック教会 ミサ（土）18時

TEL: 092-741-3687 Fax: 741-5107

〒819-0012 西区能古弁当 1621-12

発行責任者：中村 彰 神父



2

2月 四旬節

福岡教区年間目標：互いに支え合う交わりの教会となる

大名町教会年間テーマ：出向いて行く教会となる！

Becoming a Church of outreach

2月のお知らせ

- ◆ 14日（水）灰の水曜日（大斎・小斎）
ミサ：10時。 19時。
- ◆ 18日（日）四旬節第1主日
 - ・ 9時半ミサの中で洗礼志願式
 - ・ シノドス実践一学習会
 - 9時半ミサ後 テーマ：「参加」
- ◆ 23日（金・祭日）
講演会：「江戸の大殉教から400周年」
主 催：教区信徒徒職協議会
テーマ：殉教者たちのキリストへの愛の証を学ぶ
 - ・ 13時～15時 講演会
 - ・ 15時30分～16時30分 感謝ミサ
 - *講師：古巣 馨 神父（長崎大司教区）
- ◆ 四旬節黙想会 指導司祭：古巣 馨 神父
 - ・ 24日（土）
10時：講話 19時：ミサと講話
 - ・ 25日（日） 9時半ミサ後 講話



貴方の洗礼の日を思い起こし、これからも主の道を歩んでください！

*成人祝福式おめでとうございます。
*新成人・新年おめでとうございます。
1月7日（主の公現）に、大名町教会
共同体みんなで祝いいたしました。

ジョン神父 の勉強会

- ◆キリスト教入門講座
日程：（毎週木曜日）10時・19時
- ◆聖書の分かち合い
日程：（毎週木曜日）14時



ゆるしの秘蹟：希望される方は、司祭に直接ご相談ください。（毎週土曜日 10時～11時半）

多様性の一致

1月の新年会の挨拶で最近いつも心にある言葉が「多様性の一致」であることをお話しました。いろいろな考え方や行いの違いをどちらが正しいかと争うのではなく、違いを尊重しながら一致できることは一緒にやりましょうという意味だと思っています。カトリック教会では第二バチカン公会議からこの言葉がよく使われるようになってきたと思います。それまでは他の諸宗教や他のキリスト教諸派に対して、互いに自分の宗教の優位性を主張し宗教論争になっていました。それが宗教戦争にもなっていました。しかし、第二バチカン公会議からは諸宗教との対話、キリスト教一致運動が始まり、互いを尊重し、平和や人権擁護の活動で一緒に歩むようになりました。

「多様性の一致」を身近な例で考えます。まず、司祭館の中にもそれが必ずあります。日本人と韓国人、ベトナム人の司祭が共同生活しています。生活習慣や食生活の違いを互いに尊重しながら、心を一致して宣教司牧活動に励んでいます。次に、教会の中にもそれが必ずあります。ミサは日本語ミサ、ベトナム語ミサ、英語ミサで様々な国の人たちが参加しています。時間帯で住み分けられています。最後に、教会共同体の中にもそれが必要で、一人ひとり考え方の違いがあるのは当たり前です。互いの意見を尊重しながら、結論が決まったなら一致協力していく必要があります。

大名町教会主任 ヨセフ 中村彰神父

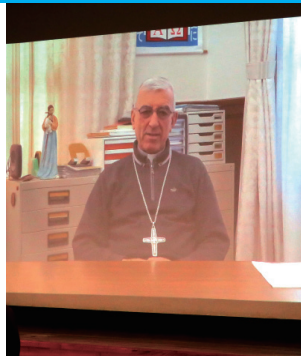
2024 年成人の祝いと大名町教会共同体の新年会 1月7日 (主の公現)



恩師の大濠聖母幼稚園の綿貫園長からお祝いの言葉



おめでとう！
井上 蔵人さん



- *「恵みの年となるように」アベイヤ司教さま。
- *「いろいろな考えがあるけど尊重しよう」中村神父さま。
- *ミュージカル「ノートルダム・ド・パリ」を一人で3部合唱、4部合唱の動画配信されたジョン神父様。



力づく、新年の抱負を語る3人



(横田小夜子さん)



(目良 豊さん)



(荒牧 結花さん)

はじめの祈り、中村神父様の乾杯で始まった2024年大名町教会共同体の「新成人と新年の祝い」。

先輩、後輩からのエールに
応える井上蔵人新成人に会場も拍手でエールを送った。

今年の抱負を、青年会の荒牧さん「神様とイエス様が共にいてくださる。夢を追いましよう」。女性代表として横田さん「大変な災害が起きたらどうするか。自分を客観的に見る。みなさん健康で」。男性代表としてヨゼフ会の目良さん「楽しい教会にしよう。知恵を出し合おう」とそれぞれ語った。

教会学校のリーダーたちの新年の歌。ちよつと先輩、うんと先輩のヨゼフ会が勢ぞろいしての祝いの合唱で会場は一つに。うんと後輩の豊嶋泰知君(4歳)がたたくシンバル中心にステージの「歌う家族」に歓声。チュエン神父様のここにこと多くの人たちと歓談、歌に拍手されている姿。ご高齢の方々の笑顔。みんなの間をエブロン姿も美しく奉仕する方々。

朝早くには、準備のために厨房や講堂に集まった人々の喜びに満ちた笑顔があった。久しぶりに多くの人々が集まったお祝いの集いに、笑顔の挨拶、おしゃべりがあつた。「楽しい」「うれしい」の多くの声があつた。令和6年、大名町教会共同体は笑顔で一つになって出発しました。



朝早くから、厨房で笑顔の奉仕



「大切にしよう。聴くこと」。吉田俊雄会長



「365日の紙飛行機」歌う家族



後輩たちに、静かにエール！



4年ぶりの祝賀会。お祝いの言葉、今年の抱負、みんなで歌う、そして笑顔。「互いに支え合う、交わりの教会となるために」出発しました。神に感謝！

シノドスの実践「共に歩む教会」 — 交わり、参加、宣教について —

昨年11月に開催された世界代表司教会議(シノドス)第16回通常総会のテーマは「共に歩むために— 交わり、参加、そして宣教」でした。

その時出された「神の民への手紙」には次のように書かれています。「教皇フランシスコが二年前に要請したように、耳を傾け識別する、長い歩みが始まりました。それは、すべての神の民に開かれ、誰一人排除されることなく、聖霊の導きのもと、イエス・キリストに従う宣教する弟子として『ともに旅する』ことへと向かう歩みです」。

今年の福岡教区の歩みは「互いに支え合う交わりの教会となる」ですが、これはシノドスのテーマと一致します。

世界の全教会が目指す、このシノドスの教会として成長するために、わたしたちの小教区も具体的な歩みを始めようと企画したのが今回の学習会です。1月は『交わり』、2月『参加』、3月『宣教』というテーマで全三回にわたって行います。毎回、教区の信徒養成チームの方々が同伴してくださいませ。

沈黙と祈りののちに、神の民が互いに話すことばをただ受け取る分かち合いは、深い霊的な交わりの体験そのものなのだ、とわかりました。

この霊的な体験を味わい、知ったことは、誰一人排除されることがないとはどういふことか、と考えるために具体的なヒントが与えられたと思うものでした。(パウロ 吉田 俊雄)



みことばを分かち合う…交わり

大名町教会で第一回目「交わり」についての分かち合いが1月21日に開催された。

分かち合いでは、フアシリテーターの役割・態度が重要であり、事前に福岡教区の信仰養成チームで信徒の安藤智子さんから学ぶ機会を設定してもらった。当日は、聖霊の働きを求めて祈り、聖歌を歌い、大山悟神父様(福岡カトリック神学院)のヨハネの手紙1章1〜4「私たちの交わりは御父と御子イエス・キリストとの交わりです」の言葉に耳を傾けた。その言葉を43名の参加者が6、8人のグループに分かれ、分かち合った。他の人が語る言葉にただ耳を傾けることに徹し、二週目には、一周目の分かち合いを聞いて気づいたことや自分の心の動きを分かち合った。

他の人の感想や思いを聞いて、自分一人では気づかなかったこと、思わなかったことなどを、深く考えることができた。この会が終了した後、ある信徒から、受洗前は勉強会があったけれど、その後は学ぶ機会がなく不安だった、続けてほしいとの意見を聞いた。

島急金 集まった228,776円は、半緊募 教会の修復、被災された信徒の地震募 方々のために、被災地当該教区支援の名古屋教区に送金しました。ありがとうございます。

今年もスープの会を スタートします！



1986年ごろから大名町教会で始まった越冬炊き出しの活動は、現在「スープの会」として継続され、活動も広範囲になった。2、3月2週目までは毎週金曜日、14時から調理、20時30分から夜回りをして調理したものを配っている。「あなたたちは私が飢えているときに食べさせ、のどが渇いていた時に飲ませてくれた。」(マタイ25・35)。

お手伝いして頂ける方を募集しています。みなさんの力をお貸しください。

大名町教会1月の現勢

12月25日から1月22日

- 【転入】ようこそ (…教会より)
 - ・マリア 佐藤 文香(広島・岡山)
 - ・ミカエル 濱里 学(東京・三軒茶屋)
- 【転出】お元気で (…教会へ)
 - ・マリア 山川 陽菜(福岡・吉塚)
- 【帰天】永遠の安息をお祈りします。
 - 1月14日
 - ・マリア・アスンタ 幸 美也子
 - 1月19日
 - ・クララ 林 松子
 - 1月22日
 - ・マリア 廣中 禎子

キリスト教一致祈禱週間

1月21日(日)、「キリスト教一致祈禱会」が行われた。今年は、大名町教会から500メートルくらい隣の日本基督教団中部教会で行われ、共同司式者として中村彰神父様(教区エキュメニズム担当)が参加。参加者約70人。一般信徒席には、アベイヤ司教様の祈られる姿があった。今年のテーマは、西アフリカのブルキナファソ共同体によって準備された、善きサマリア人の物語の中の「あなたの神である主を愛しなさい、また隣人を自分のように愛しなさい」(ルカ10・27)。



説教を担当した武藤謙一主教(日本聖公会首座・九州教区主教)は、このテーマを受けて「教会は宿屋です。フランシスコ教皇が言う野戦病院です。」と。でも、どの教派の教会にも信徒も司式者も少なくなっています。高齢化で働く人が少ないからと理由をつけたり、多様性と言いながらも、自分とは違うという恐れ、自己中心、不安が、受け入れを難しくしている。その中であって、対馬の厳原(長崎大司教区)ではカトリック信徒はいるが教会堂がなく、月に2回のミサに、聖公会の教会をお使いいただいています。

キリストの愛によって創り上げられたカトリック、プロテスタント、地域がいつしよに祈り働けば、福岡でも教会はサマリア人の宿屋になれるでしょうと語った。この日にふさわしいことが始まっている感動を覚えた。

神のみことばがあり、愛の交わりがあり、一致の希望を味わえたひと時でした。

宣教司牧評議会

◆ 議題

(1月14日)

(1) 大名町教会組織図の確認について
大名町教会の活動の実態を組織図的に整理してきたが現状を示す組織図が承認された。教会の奉仕活動の活性化を図るために掲示板に貼り出して奉仕活動への参加を呼びかける。

(2) 2024年度予算編成の評議会での審議の進め方とスケジュールについて

総会は、各部の活動報告及び予算に重点を置いた内容にしていくこととし、総会資料の作成をスケジュール化して、帳票を作成した。

火災保険の期日と更新申請について
教会の火災保険は更新時期が到来し、現行と同様(5年掛捨て)のプランで更新する。

地震保険金額が少ないのではないかと意見があり、確認する事になった。

(3) 1階掲示板への「お告げの祈り」掲示について

アンジェラスの鐘が鳴る12時に、教会にいる人は「お告げの祈り」を一緒に唱え、「共に歩む教会」を実践し、交わりを深める。

誰もが参加出来る様に、掲示板に「お告げの祈り」を掲示する。

(4) その他 能登半島地震に対する支援について

1月14日と21日の2日間「能登半島地震」の支援献金を実施し、名古屋教区に送る。

◆ 報告事項

(1) 各部活動報告

① 大掃除の振り返りについて

(12月17日 美化部)

人数は50名超の方が参加された。1階、2階、3階の担当割振りのあり方他いくつかの改善チームが明らかにあった。また、毎週のミサ後の掃除のあり方についても課題を整理する。

② 降誕祭ミサの振り返りについて

(12月24日・12月25日 典礼部)

24日19時の夜半のミサは約900名の参加があった。悪天候のためクリスマスキャロルは急遽、室内で行ったが、非常に和やかな雰囲気。降誕祭となった。教会学校としての振り返りについても報告された。

一方、反省及び検討すべき点もあったので今後に生かすため課題の整理を行った。

③ 教会ニュースの現在の課題について

(広報部)

・教会ニュースの編集上の課題が報告され、他教会の教会ニュースのサンプルを示し、あるべき教会ニュースの私たちを検討している旨説明があった。

④ 立て看板、掲示板検討委員会報告

(12月3日 総務部)

・大名町教会の立て看板につき引き続き検討中である旨、進捗状況の報告があった。

⑤ 「カトリック大名町教会」への名称統一について (12月13日 総務部)

・「大名町カトリック教会」との併用をやめて「カトリック大名町教会」に名称を統一することを決定しているが、まだ徹底されていないのでチェックリストを作成して実行することとした。

⑥ シノドスの実践「共に歩む教会」の告知について (宣教部)

・1月21日「共に歩む教会」の集いの際しその目的を確認するとともに、準備状況の報告があった。

⑦ 2月24日、25日四旬節黙想会について (典礼部)

・古巣聖神父様を招いて行う四旬節の黙想会について報告があった。

⑧ 司祭室リノベーション時の不要物の整理についての提案 (営繕部)

・2月13日からの司祭室リノベーションの実施時に、床材、壁材等の廃棄物に加えて、教会内外に放置されている不要物を「廃棄物コンテナ」を設置して整理することとする。

・「鐘楼の照明器の利用の可否について確認作業」作業を継続すること。

・家用電気工作物の月次点検結果。

・故障修理状況について報告。

⑨ 1月28日のふれあいの会について概要の報告があった。

・講和・深堀伸一さん(スーパの会代表)

⑩ 新年会＆新成人祝賀会の振り返りについて (1月7日 行事部)

・ジョン神父様、アベイヤ司教様のビデオメッセージのサプライズがあり、非常に盛り上がった。

(2) その他

① インターナショナルクリスマスパーティー
ティールよりの献金額 (12月10日) ¥111,550

② クリスマス特別献金額
(12月3日・12月25日) ¥404,175

③ 個人献金(故人)
(12月26日) ¥1,000,000

四旬節

新たな生に向けて

四旬節は「灰の水曜日」から聖週間聖木曜日の「主の晩さんの夕べのミサ」の直前までの約40日間、今年は1月14日(水)から来月28日(木)までです。

四旬節は、典礼暦の中で最も大切な復活祭を準備するための期間です。

まず、復活祭に洗礼、堅信、聖体の入信の秘跡を受ける入信志願者(洗礼志願者)の準備の期間です。それまで福音を学び共に祈ってきた求道者は、四旬節第1主日のミサの中で、神の呼びかけに応える意志を表明して入信志願者となり、三つの秘跡への直前の準備の道を教会共同体と共に歩み始めます。四旬節第3、第4、第5主日には「清めと照らし」の式が行われて、志願者の努力が豊かな実を結ぶよう祈ります。すでに洗礼を受けている信者は、入信志願者と歩みを共にしながら、洗礼の恵みを思い起こして復活祭にそなえます。その恵みと使命に十分に応えなかったことを思っ

て回心に努めます。

紫色の祭服やアレヤを歌わないこと、大斎・小斎を守る(灰の水曜日と聖金曜日。聖土曜日にも勧められる)はそのしるしです。

また、四旬節は、イエスの愛といくくしみの深さが最もよく示されますので、その愛にならうように努めます。

「復活徹夜祭」の中で、入信志願者が洗礼の水を受けて新たに生まれる(新信者)のに続いて、すでに洗礼を受けている人たちも聖水をふりかけられて、新信者といっしょに、主と共に復活して新たな歩みを始めます。四旬節に続く復活節(50日間)は入信の恵みを味わい深めていく期間です。

ミカエル 深堀 純